

# 平成24年度 【 学園研究費助成金<B> 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

フリガナ フジオカアユミ  
氏名 藤岡阿由未

研究期間 平成24年度

研究課題名 女優の異文化接触と<ニュー・ウーマン>の国際化—エリザベス・ロビンズを中心に—

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	藤岡阿由未	国際コミュニケーション学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

本研究は、<ニュー・ウーマン=その表象>が国際化するプロセスを、女優の異文化接触というコンテキストにおいて捉えなおすことを目的としている。具体的には、アメリカからイギリスへ移住した女優エリザベス・ロビンズに焦点をあてることにする。<ニュー・ウーマン>という表象の国際化には、異文化間の摩擦と融合のプロセスがともなうはずだが、その点に言及した先行研究はきわめて少ない。ロビンズの異文化接触を通して、<ニュー・ウーマン>国際化のプロセスにおける摩擦と融合のプロセスを考察する。女優の異文化接触を検討してみると、<ニュー・ウーマン>国際化において見落とされがちな摩擦、そして融合のプロセスが明瞭になってくると考えられる。

### 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

資料収集→資料精査、基礎研究→研究論文執筆という方法で、研究を進めた。資料収集と資料精査については、研究機関、研究協力者に適宜依頼しながら行った。その後、資料を精査する段階まで今年度中に終了している。現在研究論文執筆継続中であり、次年度成果を発表する予定である。

(投稿予定雑誌「椋山女学園大学研究論集 人文科学編 第45号」)

### 3. 研究成果の概要 (600 字～800 字程度で記述)

<研究成果の詳細>

#### 資料収集 (すでに終了)

- ・近代演劇関連文献の多くは、申請者が個人研究室にすでに所持。
- ・インター・カルチュラル・スタディーズ関連の文献を新たに購入。
- ・ロビンズが執筆した記事、スピーチ原稿は「エリザベス・ロビンズ・データベース」を利用する。(インターネットで無料アクセス可)
- ・ロビンズのイプセン上演関連資料(上演台本、プログラム、劇評など)をデジタルカメラで収集する。

① Victoria & Albert Museum Theatre Collection ② The Garrick Club Study Room

③ Michel & Manderson Theatre Collection (①～③ロンドン)

資料収集協力については下記の協力者協力を得た。

Valerie Kaneko (The Regent University 教授 上演研究) 赤井朋子 (神戸薬科大学准教授

英国近代演劇研究) Kristy Davis (Michel & Manderson Theatre Collection 学芸員)

Marcus Risdell (The Garrick Club Study Room 学芸員)

#### 資料精査 (すでに終了)

- ・インター・カルチュラル・スタディーズ関連の文献
- ・「エリザベス・ロビンズ・データベース」
- ・ロビンズのイプセン上演関連資料

#### 論文執筆 (現在継続中)

次年度発表の予定

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①近代演劇	②女優	③ニュー・ウーマン	④表象
⑤多文化主義	⑥移動	⑦	⑧

### 5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

- ・既に公開した論文  
『わたし』を語る女優の登場—英国近代演劇とエリザベス・ロビンズの自伝『演劇の課題』三恵社、2011年、52-77頁(査読付)。
- ・既に行った口頭発表  
「英国近代演劇における婦人参政権運動の意味—エリザベス・ロビンズを中心に」日本演劇学会全国大会(近畿大学)、2012年6月。
- ・次年度投稿予定論文  
「英国近代演劇における婦人参政権運動の意味—エリザベス・ロビンズを中心に」日本演劇学会紀要論文集57号、および「女優の異文化接触と<ニュー・ウーマン>の国際化」相山女学園大学研究論集人文科学編45号。